

「霧島発 地域の絆」事例発表会

(1) 目的

平成31年1～2月にかけて開催した情報交換会では、全圏域の共通課題として、①地域の世話役の後継者育成の課題、②多世代交流の課題（若い世代の参加が困難）といったことが挙がってきた。また、地域の取組の運営等に当たっては、公民館長や役員、民生委員といった方々に負担が集中している現状があることも浮き彫りとなった。

このようなことから、先進地域の事例発表を通じ、「誰かの役に立ちたい」と考えている地域住民が地域の絆づくりに参画できるよう、地域活動の活性化及び互助活動の普及を図ることを目的とする。

(2) 日程

①7月10日（水）：溝辺公民館（みそめ館） 2F 研修室（150名）

○満開の桜を次世代に残すために

横川圏域 植村今村地区自治公民館 館長 福原 平氏

○要介護認定を受けないためのサロン

溝辺圏域 久保山自治会 スマイルサロン 世話役 藤山 律子氏

○豊かな自然や子供たちとのふれあいを活かした地域づくり

霧島圏域 永水地区自治公民館 館長 四本 廣美氏

②7月30日（火）：国分シビックセンター 多目的ホール（300名）

○民生委員、自治会長、在宅福祉アドバイザーを柱とした三位一体の絆づくり
～災害時にも助け合える地域を目指して～

隼人北圏域 姫城地区自治公民館 館長 万膳 洋孝氏

○外国の方や移住者も馴染んでしまう田舎暮らしの不思議な魅力

牧園圏域 間手原地区 地域の世話焼き 春田 ミエ氏

○地域の地域による地域のための防災計画

国分圏域 府中地区自治公民館 館長 東 邦雄氏



満開の桜を 次世代に残すために

横川圏域 植村今村地区自治公民館長 福原 平

植村今村地区

○世帯数 215 世帯

○人口 444 人

○自治会数 7自治会(上植村、下植村、向植村、大里、今村住宅、第2・第3今村住宅)

○高齢化率 38.7 %

○小学生 28 名 中学生 9 名 合計 37 名

(令和元年5月1日現在)

<地域の特徴>

○植村今村地区自治公民館は横川町の東部に位置し、牧園町と隣接している田園地帯

○人口は減少傾向。市営住宅団地があるため、子育て世代が多く活気がある。

○地区内を県道さつま牧園線が通っており、JR肥薩線植村駅がある。

○産業は、兼業農家が主であり、若い世帯は、ほとんどがサラリーマン世帯である。

絆づくりの活動 ～地域の宝を次世代に～

植村駅舎の建て替え



◇昭和32年7月、地域の方々の請願駅として開業。

◇駅設置のため、用地及び労力の提供を行い、待合所の建設も地元住民で行った。

◇平成26年3月、老朽化していた待合所を霧島市の補助金や始良地区木材事業協同組合より木材の提供をいただき、工事については、地元住民のボランティアにより完成した。（木材以外の事業費358千円）



植村駅還暦祝い(開業60周年)



植村駅周辺景観整備事業

◇平成21年11月に、永年景観を阻害していた線路沿線の雑木・竹・雑草などの伐採を行う。(霧島市地区活性化補助事業を活用)

◇平成23年2月に、植村駅周辺及び鉄道沿線に桜を植栽する。

(鹿児島県地域振興推進事業、事業費2,998千円)
(ソメイヨシノ61本)



鬼火焚き ～伝統文化継承～



敬老の集い～交流活動～



地区内ウォーキング



地区内危険箇所点検・防犯パトロール



青少年健全育成活動



十五夜



老人ホーム慰問



ふるさとの時間(蠅たたきづくり・団子づくり)

泥んこバレーボール大会 ～霧島市商工会青年部との交流活動～



今後の課題

- ◇他の団体との連携・協力体制がますます必要となってくる。
- ◇独居老人世帯が増えていく中、声かけ運動などをはじめ、防犯活動の充実が必要である。
- ◇交流活動への参加者を増やすためには、活動内容の魅力を更に高めることが重要である。
- ◇活動資金の確保が厳しくなってくるので、事業の精査が必要である。
- ◇役員の確保に苦労している。

要介護認定を受けないためのサロン

溝辺圏域 久保山自治会

スマイルサロン 世話役 藤山 律子

はじめに（サロンの趣旨）

高齢者が元気で、健康寿命をいかにして伸ばすか？

ひざ、腰などの痛みでスポーツのできないお友達と楽しく過ごすために、お互いに声掛けし、身体に良いストレッチをし、「認知症」という言葉がほど遠いところの話になってほしいと願って、始めたのが、笑顔の絶えない集い「スマイル・サロン」です。



久保山自治会の特色、紹介

- 東は鹿児島空港が、西に桜島を眺め空港の騒音もなく都市計画区でもあります。近年、若い人達が居住する様になり250戸位にふくらんだ活気あふれる地域です。安心して歳を重ねていける所です。
- サロンの開催地域は西原地区自治公民会の中の久保山と久保山南の方々を対象として始めました。開催場所は崎森地区公民館です。
- 地域内には高齢者施設の「小規模多機能ホームよいやんせ」があります。色々なことで私たちの勉強の場になったり、困ったときの相談場所としてたよりにしています。また、利用者の方々ともいろいろなイベントを通じて交流を行っています。



サロンを開催するにあたり

○ なぜサロンを開催しようと思ったのか。

私は4年前に一人暮らしとなりました。周りの皆さんに慰めてもらうなかで、近所に一人暮らしや引きこもっている人が多いことに驚きました。そんな方々が参加がしやすく、楽しくて笑いの絶えない場を提供したい。との思いで霧島市地域のひろば事業を活用し開催しました。その名は「スマイルサロン」です。



スマイルサロンの活動について

○広報のしかた(参加を引き出すための工夫など)

- ・よいやんせの職員(ライフサポートワーカー)にチラシを作成してもらう。
- ・花壇の花植えなど、老人クラブの活動時に声掛けをする。
- ・気になっている人に直接電話をしたり出向いたりする。
- ・開催日の前日には電話をして呼び掛ける。

○開催場所、移動手段について

開催場所は崎森地区公民館です。歩いて来る方が大半ですが、車で乗り合わせて来る方もいます。

○開催日時、参加者数

- ・毎月第二第四火曜日の13:30～15:30、参加者は平均18名

○どのような内容で

- ・毎回軽い体操、おしゃべりをしてからその日のメニューを行います。

・塗り絵、書初め、盛花、編み物、お菓子づくり、手打ちそば、映画、医師による健康講話、よいやんせの視察研修など

ミニスポーツ大会等、皆さんが楽しみながら飽きないように多種多様なメニューで 開催しています。

また、参加者の特技を生かして、漬物上手な方には、お茶請けの漬物づくりをお願いしたり、編み物の得意な方に講師をおねがいしたりして、得意分野で役割をもってもらうようにもしています。

講 話



そうめんづくり、手打ちそば



映画鑑賞



体 操



塗り絵



編み物、書初め



ミニスポーツ大会



活動を通して感じていること

- 毎回16人以上の参加があるので、材料の準備等も油断できないので、計画的に早々に準備の必要があると思います。
- 開催当初は、開催日を忘れてしまうことが多くて、支援の必要があった方も、今は忘れることなく、毎回楽しみに参加しており、サロンの成果を感じます。

このようなことから、いかに多くの人々とコミュニケーションをとり、気づきや笑いを得ることが大切なことだと痛感しています。

最後に

霧島市のサロン支援がいつまでも続くことを願いながら、私のできる限り世話役を続けていこうと思っています。

後継者については、若い方々がいらっしゃるので、少しずつ手伝ってもらいながら、バトンタッチできるようにしていこうと思っています。

ご清聴、ありがとうございました。

豊かな自然や 子供たちとのふれあいを 活かした地域づくり

霧島圏域 永水地区自治公民館
館長 四本 廣美

永水地区の歴史

- 昭和10年7月・・・東襲山村から霧島村に改名
- 昭和25年・・・旧霧島村から東襲山村と松永が分離し、大字重久から大字永水へと改名されたのが「永水地区」の始まり。
- 標高200～300mの高さにあり、和牛の生産のほか、茶、米、里芋等の栽培が盛ん。
- 人口は、減少の一途で
昭和41年6月：1,133人
平成4年6月：661人
令和元年6月：493人



永水小学校の山村留学

- 永水小学校は、明治24年4月に永野田簡易小学校と入水簡易小学校が合併統合され、校名を永水簡易小学校として発足。
- 児童数は、昭和34年：209人、平成3年：54人、平成31年：24名。
- 平成3年に山村留学実施委員会を立ち上げ、平成4年度から5名の留学生の受け入れが始まった。
- 里親の家庭に入る「里親留学」
家族で永水に来る「家族留学」
県外に住む孫を受け入れる「孫戻し」
といった3つの受入パターンを実施。
現在は家族留学のみの受入となっている。
- これまでに受け入れた児童数は150名を超え、永水は多くの方々の第2の故郷となっている。



牧神相撲大会

- 大正5年9月、秋の彼岸の中日に牛馬流産防止祈願として奉納されたのが始まり。
- 昭和19～21年は戦争のため中止。
- 昭和41年から諸々の事情で途絶えてしまう。



- 昭和53年、永水地区公民館竣工
- 昭和54年、永水地区公民館制度発足
- 体育部が中心となり昭和56年度復活。
- 青少年の育成、地域の活性化を願って現在に至っている。

小学校・校区合同運動会

- 児童数の減少と地区公民館制度の発足により、小学校の運動会に合わせて校区運動会を実施。
- 6つの自治会があるが、4つの地区を編成し、地区対抗種目を競い合う。



- 綱引きやリレー競争等には、地区外に居住する永水出身者も参加しており、住民同士の交流が弾むだけでなく、地域活性の大きな盛り上がりを見せている。

「てかご会」と「永水ソバーズ」

- 「てかご会」は、地域行事の炊き出しを担当する、永水には欠かせない貴重な存在。
- 7名のメンバーで構成され、様々なレシピが脳にインプットされた「食育インテリジェンス集団」。



- 平成10年、公民館に加工施設が整備されたのを機に「永水ソバーズ」が結成され、各種イベントで美味しいそばが振る舞われている。
- 12月には70歳以上の方に、手打ちそばをお届けしている。

霧島地区のサロン活動

・合併前「霧島町」の時代は、社協が各自治公民館等をまわり、ふれあいサロンを実施していた。電車やバスを使っの小旅行は、参加者にとってとても楽しい取組であった。



・合併後は、神の湯を拠点に11地区の方々をマイクロバスで送迎しサロンを実施。
・平成28年度で、その事業が終了となったが、「楽しい集いの場を続けたい」との要望が多数挙がっていた。

永水ふれあい水曜会

・それらの要望を受け、公民館役員会で協議した結果、平成29年度から「地域のひろば推進事業」を開始。



・公民館役員、民生委員、在宅福祉アドバイザー、看護師、小学校の先生等多くの方々の理解と協力をいただき、毎月1回開催中。

昨年度の永水ふれあい水曜会

市議会議員の気分を味わってみた



市長室訪問



城山展望台にて



今後の課題

- ・永水地区は高齢者が多く、永水ふれあい水曜会や敬老会等への参加対象者がたくさんいるが、実際の参加者数は少ないのが現状。
- ・まだまだ多くの高齢者が元気に過ごしており、「米作りや野菜作りの方が楽しい」との声も聞こえてくる。
- ・一人暮らしの増加や近所付き合いの希薄化も進んでいる中ではあるが、みんなで集まれる機会をつくり、談笑し、体を動かし、飲食を共にする楽しさを皆で分かち合いながら、隣近所の顔の見える関係づくりを継続実践していきたい



「霧島発 地域の絆」事例発表会 7月10日の様子①



受付の様子



会場の様子（参加者 154 名）



行政あいさつ



社協会長あいさつ



趣旨説明



談笑する事例発表者 3 名



事例発表（福原平様）



質疑応答（福原平様）

「霧島発 地域の絆」事例発表会 7月10日の様子②



事例発表（藤山律子様）



会場からの質疑



質疑応答（藤山律子様）



特技披露（四本廣美様）



事例発表（四本廣美様）



会場からの質疑



まとめ



盛会のうちに終了

7月10日「霧島発 地域の絆」事例発表会 アンケート結果

参加人数	154
アンケート回収数	135
アンケート回収率	87.7%

①お住まい

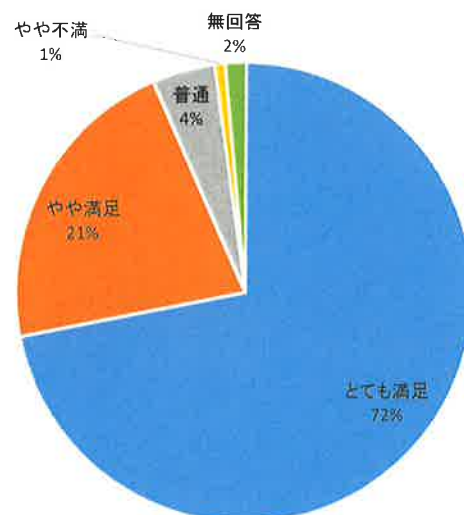
国分北	4
国分	8
国分南	
溝辺	32
横川	19
牧園	30
霧島	23
隼人北	7
隼人南	8
福山	2
市外	2
無回答	



②総合的な満足度

②総合的な満足度

とても満足	97
やや満足	29
普通	6
やや不満	1
とても不満	
無回答	2



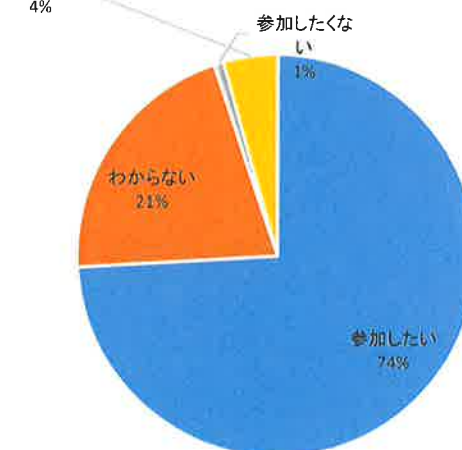
③満足度の理由

- ・積極的な取組が聞けてよかった。苦労話も聞けてよかった。3人の話に説得力があった。
- ・よその地域のことがよくわかった。説明がわかりやすかった。自分の地区にはない活動に感心した。
- ・ボランティア精神に感激した。発表者がいきいきしていた。元気をもらった。前向きな気持ちになった。
- ・「好きなことができる幸せ」、「楽しむ(笑う)」ことの大切さを考える機会になった。
- ・自分の地域の参考にしたい。地元の課題解決に役立てたい。地域性の活かし方が勉強になった。
- ・地元の取組を聞き目頭が熱くなった。3人の熱意が伝わった。生の声が聞けてよかった。3人の話術に脱帽。
- ・急用で途中退席したため、全員の事例が聞けなかった。
- ・地域の中で楽しく分かち合いながら「できること」をするのが一番だと思った。
- ・私が体験したことのない発表を聞いた。こういった活動を自分が知らなかったただけだった。世の中捨てたものじゃない！
- ・発表者3人が素晴らしかった。3人の熱心さ・ユニークさが伝わってきた。リーダーの存在が地域発展の鍵だと思った。
- ・どこの地域も協力者・参加者を募る苦労があることが分かった。館長職はどこでも同じような苦労していると感じた。
- ・同じ「サロンの世話役」として勇気をもらった。サロン運営に役立つ話だった。
- ・ある程度自由のきく人を対象にした活動報告であり良い結果のみ。もっと泥臭い内容もあると思う。
- ・今日の発表会は最高に楽しかった。楽しい時間をありがとうございました。
- ・自分も頑張らないといけないと思った。発表者と友人になりたい。
- ・それぞれの地区の歴史等まで聞くことができてよかった。
- ・地域内での対話に心掛け、多くの人と信頼関係を深めていきたいと思った。
- ・事例発表は3例では少ない。一人の持ち時間を減らして、もっと多くの事例が聞けるようにしてほしい。
- ・3人の事例内容が全て自分の地区にも役立つ。参加できただけでもありがたいことだった。
- ・もっと地域のひろば推進事業について聞きたかった。
- ・できないことがあっても、笑いながら活動していきたい。
- ・スタッフの方々の行き届いた対応がよかった。本当にお疲れ様でした。
- ・時間が長くても、飽きることなく聞くことができた。興味の持てる内容ばかりだった。
- ・3つの事例に共通することが、高齢化で近い将来につちもさっちもいなくなる。どう対応するのか？
- ・サロン活動のところでは運推のこともふれてほしかった。
- ・若い世代が楽しめる行事がない。子供が参加できる催しが少ない。

④情報交換会への参加

参加したい	100
わからない	28
参加したくない	1
無回答	6

④情報交換会への参加



⑤ご意見・ご要望

《次回のテーマ》

- ・若い世代を地域活動に巻き込む工夫。若い世代が参加しやすい環境づくり。世代間を繋ぐ工夫。
- ・高齢者の生きがいづくり、希望の持てる生き方。
- ・活動資金の確保について。
- ・安心・安全な地域づくり。
- ・いつまでも元気で過ごすには。健康管理。食事について。長生きの秘訣。生活習慣病予防。
- ・趣味や特技を活かした地域づくり。自分の得意なことを発表する。
- ・サロン活動の活性化。
- ・公民館(自治会)活動の活性化。なくなった行事を復活させる工夫。
- ・もう一度具体的な実践事例の発表をしてほしい。活動を始めたきっかけや軌道に乗るまでの苦労等。
- ・若者が考える将来の霧島像。
- ・協力者や参加者を集める工夫。
- ・地域おこし(今回ののがとても参考になったので)。
- ・引きこもりへの対応について。
- ・自治会加入率を上げるための活動について。新しい住人や借家の人等との絆づくり。
- ・人間の活力を上げる活動について。
- ・空き家、空き店舗の活用について。

《ご意見》

- ・ステージのある会場でないと、後ろからは発表者が見えない。
- ・もう少し会場を考えてもらいたい。駐車場が遠い。エレベーターがない。
- ・質問のタイミングが難しい。
- ・聞くだけでなく、自由に発言できる分科会も開いてほしい。
- ・次回も参加したいが、仕事の都合があるのでわからない。体が出席できる状態だったら参加したい。
- ・秋は農作業で忙しい。1~2月頃の開催希望。
- ・地域のひろばの補助金の使用例を教えてください。
- ・今日、紹介のあったサロンへ行く講師の方々のお話を聞きたい。
- ・季節ごとの活動の状況等を一覧化してほしい。
- ・たいへんお疲れ様でした。次回も活動報告を楽しみにしています。楽しいお話をお聞かせください。
- ・このプロジェクトは毎回参考になることばかり。
- ・このプロジェクトには第1弾からずっと参加しているが、ようやく企画の意図が理解できた。
- ・今日と同じテーマで2弾3弾と続けてほしい。

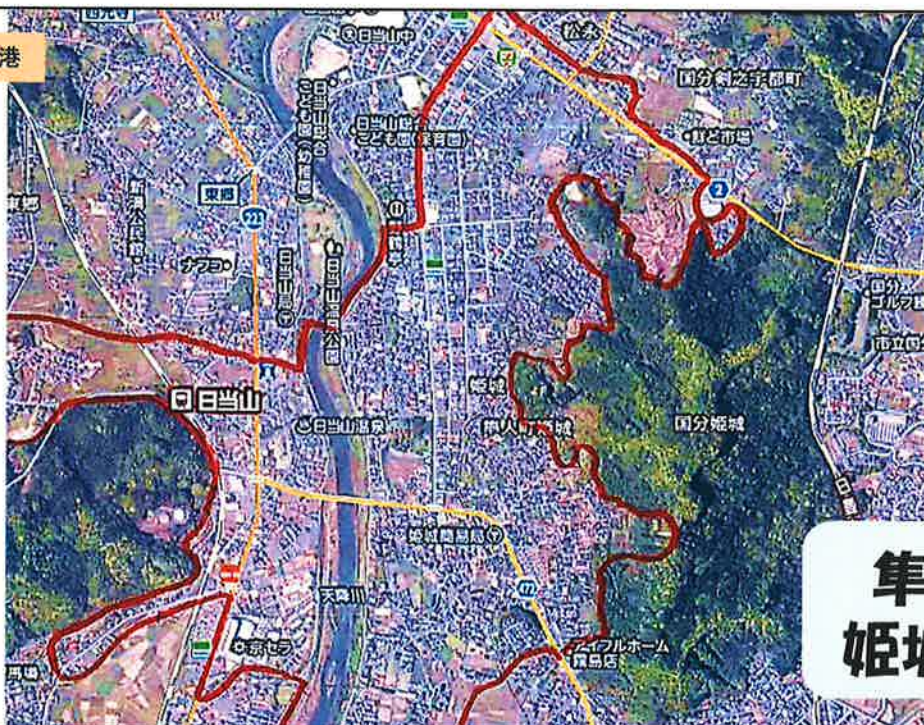
民生委員、自治会長、在宅福祉アドバイザーを 柱とした 三位一体の絆づくり

～災害時にも助け合える地域を目指して～

隼人北圏域 姫城地区自治公民館

館長 万膳 洋孝

至 空港



隼人町
姫城地区

姫城地区の現状

○平成31年4月1日現在の人口

・世帯数：2,829世帯

・人口：5,686人（男：2,644人 女：3,042人）

・市内の89公民館のうち、6番目に人口の多い地域

（①富隈12,938人、②宮内8,844人、③清水7,467人

④国分東6,792人、⑤広瀬6,323人）

○約50年前の都市計画以降に移住してきた人（特に定年後）が多く高齡化が急速に進んでいる。

○元々住んでいた人は農業を行う人が多く、「結」の風習が今も残っているが、徐々に希薄化してきている。

姫城地区自治公民館の組織①②

1. 《 5つの柱を5つの事業部で活動 》

(1) 「きれいで明るい自然に優しいまちづくり」

生活環境部

(2) 「防犯防災に強い安心安全なまちづくり」

防犯防災部

(3) 「心の通い合う触れ合いのあるまちづくり」

教育文化部

(4) 「文化とスポーツを通じて人が元気になるまちづくり」

健康増進部

(5) 「花と緑と果実の香りに満ちた「すももの里」づくり」

福祉活性化部

2. まちづくり事業を支える5つの関係団体

(1) 消防後援会

(2) 地域女性連

(3) 青少年育成会

(4) 老人クラブ

(5) 子ども育成会

姫城地区自治公民館の組織③ (1) ~ (3)

3. まちづくり支援を支える組織

(1) 防犯パトロール隊

- 児童 生徒の下校時間に合わせて、年間計画に添って、130回以上、各自治会毎に行う。組織は80名を超えます。パトロールの際は、制服・制帽を着用します。

(2) 在宅福祉アドバイザー制度

- 姫城区は、霧島市の中で、在宅福祉アドバイザー制度を積極的に取り組んでる先進地域自治会組織です。特に、高齢者で一人住まいや寝たきりの高齢者や障害者に対して、見守りと安否確認を重点的に行う、福祉事業です。現在40名が登録されています
- 昨年の2月23日、民生委員と在宅福祉アドバイザーの合同会議の中で、高齢化社会を迎え、現在の体制では、見守りと安否確認を行うには、増員が必要と言う事になりました。アドバイザーの登録は、館長が福祉課に申請して、認可されたら、活動出来る組織です。自治会長さん、民生委員の方々のご協力をお願い致します。

(3) しゅじゅどん会(青少年育成会)

- 小学生を主体として、「農業体験を通じた三世代交流と将来の日本を担う子供に、食の安心・安全な食文化の継承と集落の伝統的な行事を、地区自治会・老人クラブ・地域女性連・子ども育成会が中心となって支援、実践している。

5

姫城地区自治公民館の組織③ (4) ~ (6)

(4) 地域女性連

- 地域の行事には欠かせない存在で、会長さんをはじめ、組織が高齢化する中、全ての行事に、女性連が組織で支援を載っています。特に、夏祭り・運動会・収穫祭・七草祝いなど、自治会も、行事の度に、感謝しています。

(5) すももクラブ

- 姫城地区に住んでおられる、育児真っ最中の、お母様方を中心に、教育文化部と民生委員の協力のもと、公民館で育児や子育ての悩みを通じて、支援の絆を広めている。

(6) 子供(こども)育成会

- 小学生を主体として、自治会が行う、「すもも夏祭り」・「大運動会」・「スタンプウオークラリー」など、老人クラブ・地域女性連やしゅじゅどん会と融合しながらの協力で、農業の体験も頑張っている。

6

絆づくりの主な取組① ～子育て支援～

＜姫城地区子育てサロン「すももクラブ」＞

- 日時：毎月第2木曜
午前10時～11時30分
- 場所：姫城地区公民館
- 参加料：1家族100円（1回）
- 開設：平成27年



- 内容：民生委員・児童委員や地域のボランティアたちと創作活動や読書会などを実施。特に大切にしているのが、親同士が交流する「おやつタイム」。育児に追われる親は孤立しがちなので、保護者の「一息つける場」を作っている。

絆づくりの主な取組② ～サロン活動～

＜きずなの会＞

- 日時：毎月第4土曜
午前13時30分～16時
- 場所：姫城地区公民館
- 参加者：15名前後
- 内容：茶飲み、地域内の問題の話し合い、制作活動、コーラス等



- きっかけ：この地区は、定年後に移住してくる人や長年この地を離れていた人が帰ってくるケースが多く隣近所の繋がりが希薄化。東日本大震災をきっかけにこの活動を始めた。

絆づくりの主な取組③ ～青少年育成～

＜＜姫城しゅじゅどん会＞＞

- 会員数21名
- 平成15年から、食文化伝承をテーマに、米作りやそば作りなどの農業体験に取り組み、この活動を通して三世代交流を図っている。

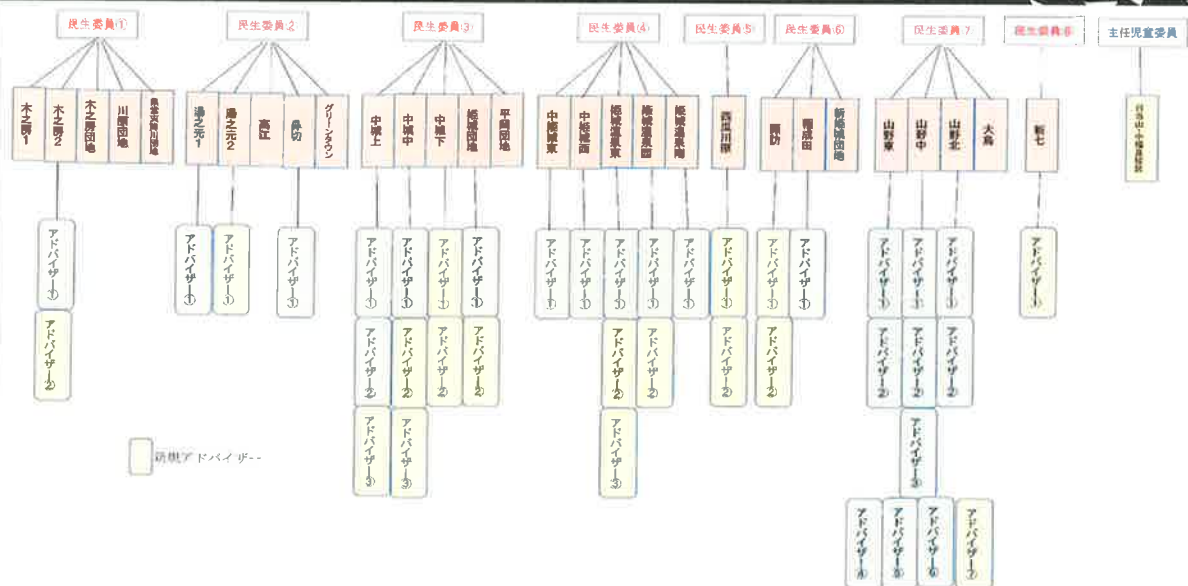


- 意気込み：これからも子供や親に米作りやそば作りなどの農業体験を通して、食の大切さを伝えていきたい。

このように住民同士の絆づくりを進めているが・・・

- 約130名の要援護者（要介護状態の高齢者、独居高齢者、障害者等）の見守り・安否確認等の活動は、8名の民生委員と1名の主任児童委員、26名の在宅福祉アドバイザーが中心となっている。
- もし、自然災害が発生した場合、この35名で130名の要援護者を全員避難させることは到底不可能である。
- 平成31年2月23日、民生委員・アドバイザーの情報交換・意見交換会でこの状況を共有し、各自治会にアドバイザー推薦を依頼。
- その結果、在宅福祉アドバイザー数が、新旧合わせて40名となった。

三位一体の絆づくり 組織図



老いも、若きも…三位一体



外国の方や移住者も馴染んでしまう 田舎暮らしの不思議な魅力



牧園圏域 間手原地区
地域の世話焼き 春田 ミエ

間手原地区ってどこ？



間手原地区の魅力



- 集落を流れる石坂川には、出水や共同浴場があり、水遊びやバーベキューなど住民の憩いの場となっている。
- この共同浴場(ラムネ温泉)は、川への降り口の札を「入浴中」にひっくり返せば誰でも入浴できる。

- 223号線から少し入ったところにある鎮守神社は、明治維新後の廃仏毀釈の御神体12体が祀られている神社で、昭和の時代には子供たちが勉学や遊び等で集まる場として、また、境内ではさまざまな地域行事が催されていた。
- 現在も、月1回住民がそろって清掃活動を行い、大切に祀られている。



私が間手原に移住するまで

- 大阪生まれ。職場で知り合った間手原出身の夫と結婚。
- 昭和53年(30代前半)、農業や酪農をしたくて、夫の故郷である間手原へ移住。
- 移住当初は、よそ者扱いされ、つらい思いをしたことも・・・。



- 当時は30歳代の若い世代が多かったが、集まる機会がほとんどなく、夫の呼びかけで定期的な飲ん方が始まった。
- 飲ん方をきっかけに、行われなくなっていたさまざまな地域行事(六月灯、七夕、十五夜など)が復活することとなった。

七夕



薪割



チェーンソーの
扱い方を教える



女性も総出
で作業中

昼食の
豚汁づくり



無人販売



新鮮な野菜だけでなく
さっきの薪も売ってます

県道沿いの
のぼりが目印



年 賀



元旦は、朝8時に
公民館に集まって
住民みんなで
新年を祝います



間手原地区の仲間たち

マレーシアからきました



他県から移住し民泊経営
来っくいんせ！！



ご清聴ありがとうございました

地域の地域による地域のための防災計画



府中地区とは

国分平野の中心部に位置する、標高約12mの丘陵地とその周辺に構成される、地区人口558世帯／1,084人(平成31年5月1日現在)で6自治会加入者272世帯／699人からなるコミュニティ

古くは大隅国府が置かれていた地域とされ、少なくとも700年以上前から存続している祓土神社があることから分かる通り、古くから政治や文化の中心であった。

地区の周辺を日豊本線や隼人、都城、空港へ通じる県道などが走る交通の要衝であるとともに、市街地近郊の典型的な農村集落であったが、近年は複合商業施設の開業や集合住宅の建設など、日々変遷を続ける地区でもある。



平成28年4月
熊本地震



平成29年7月
九州北部豪雨



行政も被災し、
行政としてやるこ
とは多い！
行政のみでは
いけない！

最近多いなあ！
しかし他人事ではない！

平成30年7月
西日本豪雨



自助と共助が重要

自分の命は自分で
守るしかない！
地域は助け合っ
てなるべく不幸にな
る人を出さない！

3

府中地区の
防災計画は
あるけど具体
的にどうすれ
ばいいのかな



実はね、ずーっと考えてい
ることがあるんだよね。

館長この店のこの
お酒美味しいですよ



それなら
どうですか



府中地区地区防災計画を作っ
て
具体化してみませんか。
県の事業に応募しますよ。

酒が取り持つ縁
で話が急展開

4

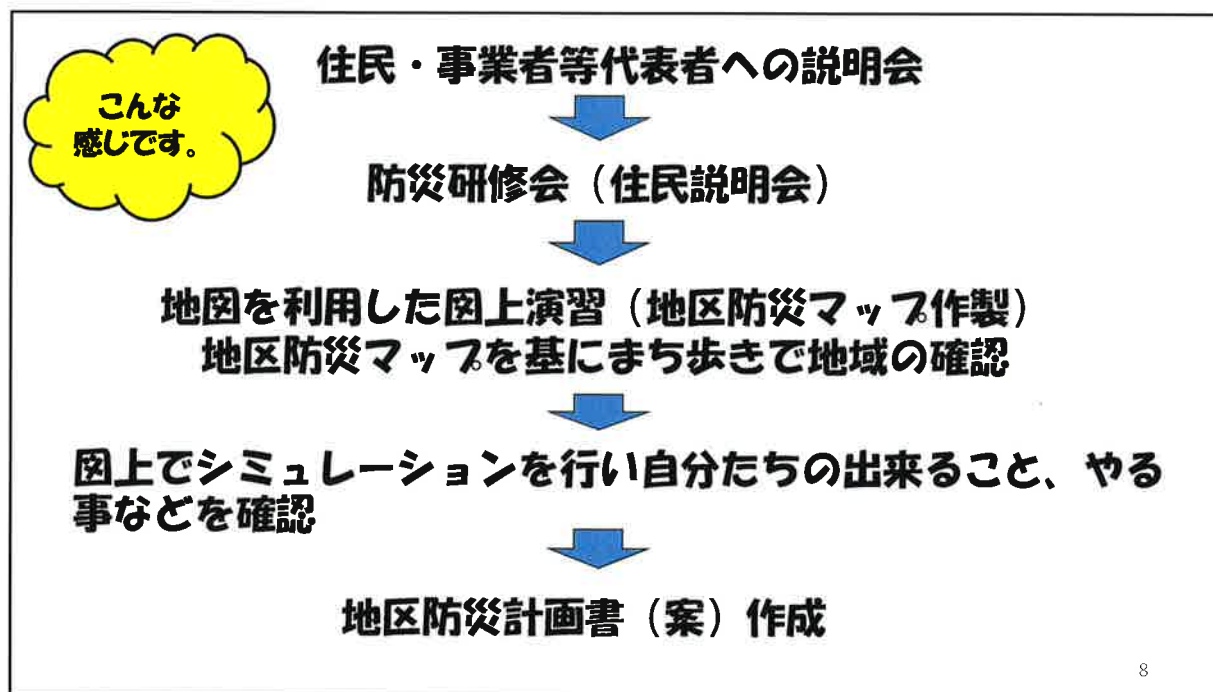
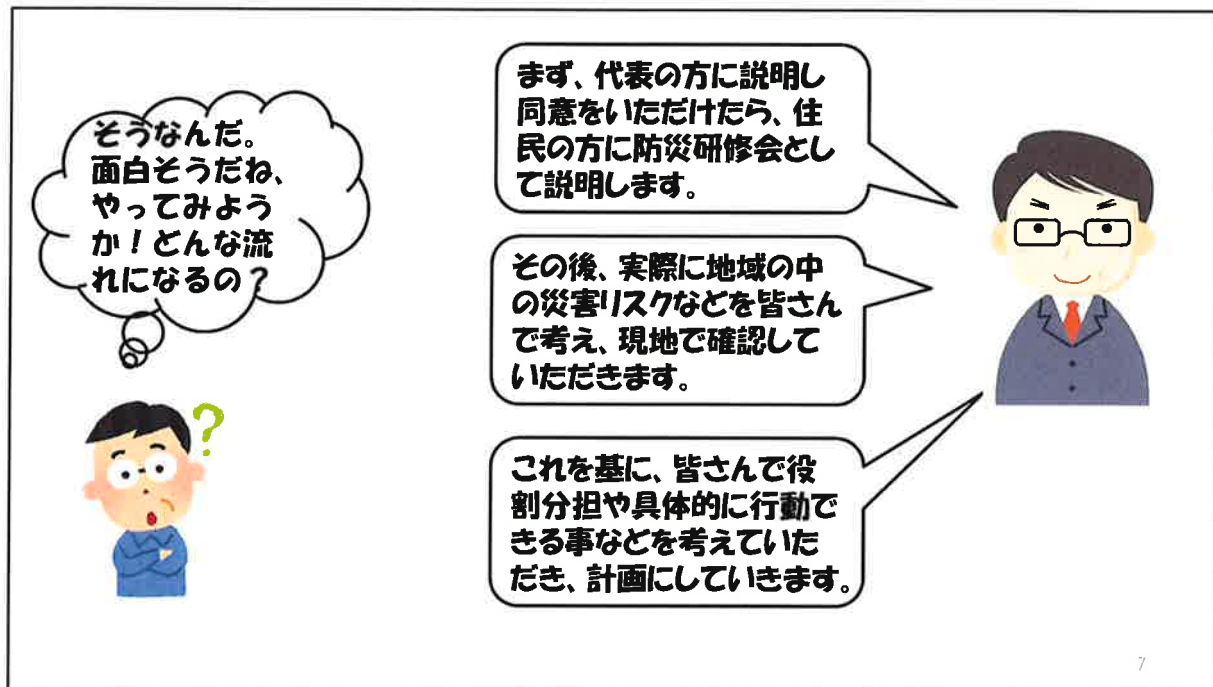


地区防災計画策定の効果

- ・ 地区の自然災害リスクが明確化される
- ・ 地区の社会的リスクが明確化される
- ・ 計画策定過程で、域内交流が促進される
- ・ 地区の防災ローカルルールが明確化される
- ・ 地区の共通認識が醸成される
- ・ 防犯、福祉等の付随的効果が期待できる
- ・ 地域力の底上げが期待できる

これもあ
りますよ

6



9月13日
(公民館と所在事業所代表への説明会)



小学校、福祉施設、医療機関、小売店など

10月11日
(防災研修会兼ねて住民説明会)



9

皆活発に
やっている
なぁ

11月18日 (DIGと防災街歩き)

ここは、大雨の
時グレーチング
が持ち上がる可
能性があります



落ちるやん



南九州ケーフルテレビネット(株)制作ニュース

10

皆で検討した府中地区の災害リスク



12月6日（図上シミュレーション）

1月10日（防災計画素案の検討）



ここは昔水に浸かったのよ

へえー そうなんだ・



ここはこげんしてこげんして・・・

12

3月24日（総会において府中地区防災計画の策定）



と云うことで、
完成しました

良くできている
なあ・・・

13

計画策定したことによって

自主防災活動のスタート地点についたのので、これからの取り組みが重要であると思っています。

現在考えているのは・・・・・・・・

★各事業所とのネットワーク構築に係る協定書又は確認書の取り交わし

★要配慮者と支援者名簿作成

★防災会組織に実人員を配置しての検証

★防災訓練の実施など 　　です。

一歩一歩進めていこうと思っています。

14

「霧島発 地域の絆」事例発表会 7月30日の様子①



受付の様子



会場の様子（参加者 274 名）



行政あいさつ



社協会長あいさつ



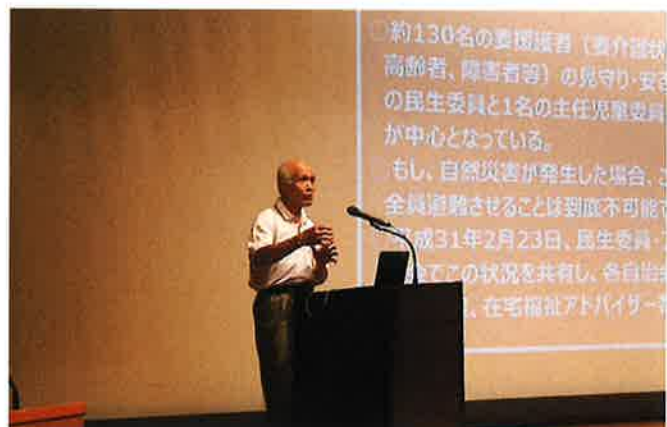
趣旨説明



事例発表（万膳洋孝様）



会場からの質疑



質疑応答（万膳洋孝様）

「霧島発 地域の絆」事例発表会 7月30日の様子②



事例発表（春田ミコ様）



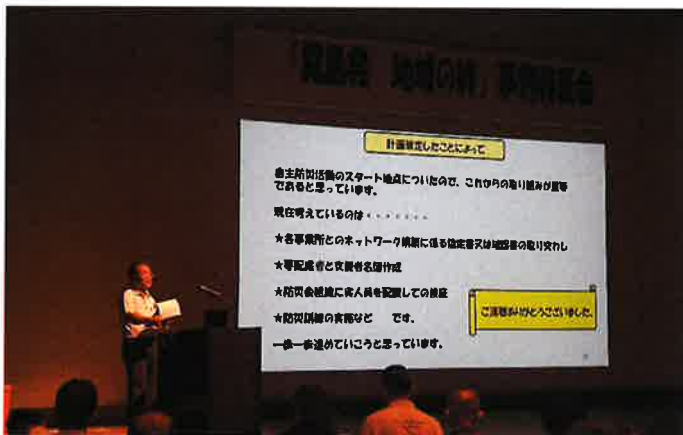
会場からの質疑



質疑応答（春田ミコ様）



事例発表（東邦雄様）



事例発表（東邦雄様）



会場からの質疑



質疑応答



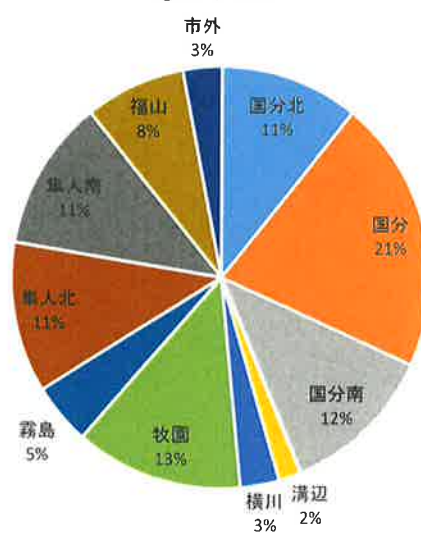
まとめ

参加人数	274
アンケート回収数	233
アンケート回収率	85.0%

①お住まい

国分北	25
国分	49
国分南	28
溝辺	4
横川	7
牧園	30
霧島	11
隼人北	27
隼人南	27
福山	18
市外	7
無回答	

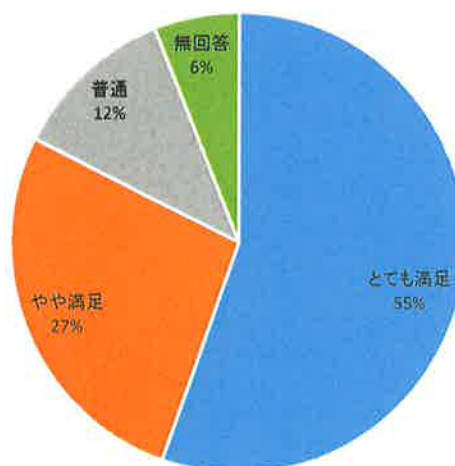
①お住まい



②総合的な満足度

②総合的な満足度

とても満足	129
やや満足	63
普通	27
やや不満	
とても不満	
無回答	14



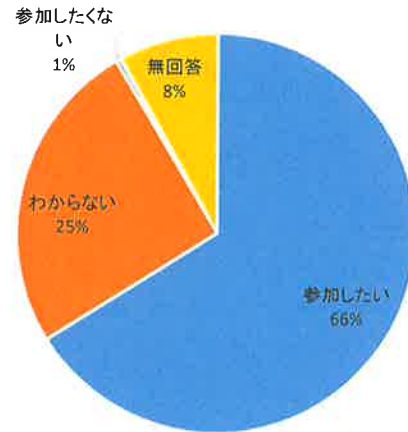
③満足度の理由

- ・知らない地区の取組が聞けてよかった。地域の実情がよくわかった。こんなに頑張っている地域があることに驚き。
- ・隣近所の付き合いを日頃から大切にしないといけないと感じた。隣近所での声掛けを日頃からしないといけない。
- ・もう少し具体的な話が聞きたい。もっと今後の課題点について聞きたいと思った。もっと苦労話を聞きたい。
- ・解決策が具体的だった。とても参考になった。楽しいこと、つらいこと様々な話が聞けてとても勉強になった。
- ・とても聞きやすかった。発表者の話し方が上手だった。話す方々に熱があつてすごく良かった。よくまとめられている。
- ・自分の地域でも課題検討していきたい。地域のことをいろいろ考えさせられた。自分の地域にも活かしていきたい。
- ・各地域の課題を各発表者が自分なりの特徴を出して説明されたのが非常に良かった。熱意が伝わった。
- ・非常に楽しかった。3人ともとても個性的で楽しかった。3人とも地域愛がすごい。役員さんたちの苦労が伝わった。
- ・春田さんのような人に自分もなりたい。発表者が言われた「お年寄りから知恵をもらう」は大事。絆の深さを感じた。
- ・災害の話が非常にわかりやすかった。手順よく丁寧にやられている。防災についてもっと勉強したいと思った。
- ・すももクラブ等の取り組みや日頃からの声かけ等の重要性を強く感じた。大きな公民館をよくまとめているらしい。
- ・役員ではない人たちも、どこにどんな人が住んでいるかを知るべき。
- ・マイクの音量が小さかった。
- ・事例のようにたくさんの人に参加してもらうにはどうしたらよいのか？ 問題点は多いのに、先が見えない。
- ・発表者も若い人が出てきてくれるようになったら面白味が出てくると思う。
- ・地域を支えているのは「高齢者パワー」だと感じた。年寄りの「昔とった杵柄」を活用する必要性を感じた。
- ・地域の役員さんたちが誠意をもった方々だと、住人も安心して生活できるのではないかと感じた。
- ・発表者の前向きな姿勢に元気をもらった。地域を盛り上げる姿に感動。活き活きとした取り組みに感動。
- ・今回の雨でがけ崩れがあつたが、どこに話したらよいかわからない。
- ・地域のことを熟知し、地域に溶け込んでいらつしやることに敬意。日々の活動の積み重ねが伝わってきた。
- ・リーダーシップを発揮しながら、次のリーダーを育てることが大切だと感じた。
- ・地域の協力をもらえるのがうらやましい。地域の方々の協力を得ることができるのは発表者の人柄だと思う。
- ・在アドに男性が増えたら安心できることも多い。在アドは各班ごとなどもっと狭い地域に配置できるようにしてほしい。
- ・民生委員や在アド、地域の役員等、高齢化で厳しい面がある。
- ・「地域の絆」は人間関係が大切。信頼関係を築くために地域内の交流がもっと必要と感じた。
- ・うちの地区も防災計画やマップづくりに取り組んでいる。
- ・よその地域の取組を見に行きたい。まだ何かできることがあるのではないかと自分が動くことの大切さを知った。
- ・社協職員が地域との絆をしっかり築いていることが伝わった。毎回素晴らしい人材が登場することに感銘を受けた。
- ・会場の雰囲気が非常に良く、充実した時間を過ごすことができた。
- ・自分も前向きに取り組んでいきたい。集いの場を作っていきたい。意識の高揚につながった。
- ・高齢者対応は、待ちではなくこちらからの行動が大切であることを学んだ。
- ・今日の発表は「地域の絆」というテーマにぴったり。
- ・行政ではとてもできない地域ならではの取組！すばらしい。自分の地区との格差が大きすぎて・・・。
- ・高齢者対策、障害者対策等更なる掘り下げを望む。「地域まちづくり支援事業」と連携すべき。
- ・「地域の絆」は人間関係が大切。信頼関係を築くために地域内の交流がもっと必要と感じた。
- ・若い人も年配の人も地域に関心を持ってもらうことで絆が深まると思うが、周囲の関心度が薄いように思う。
- ・住民の一体感を感じた。自分の地区でももっと住民参加を呼びかけ、地域の絆を深めていきたい。
- ・説明者の話が分かりやすく生活の息吹を感じた。報告内容のレベルも高く、まさに地域のための報告になっている。

④情報交換会への参加

④情報交換会への参加

参加したい	154
わからない	59
参加したくない	1
無回答	19



⑤ご意見・ご要望

《次回のテーマ》

- ・自治会加入を増やすために
- ・地域のひろばやサロン活動の状況について
- ・老老介護、認知症対応等に対して、地域でどんな支援を行えるか
- ・自治会(公民館)活動の参集率を高めるために
- ・独居高齢者(特に男性)の引きこもり対策
- ・後継者育成の取組について
- ・避難勧告や避難指示が出た場合の自治会内での避難の取組や避難行動支援者に対する取組など
- ・空き家対策
- ・それぞれの地域で行われている活動をもっと知りたい
- ・高齢者が参加できる取組について
- ・やる気のある仲間づくり
- ・地域内の互助活動について、詳しく講義を聞きたい
- ・事例発表、小さなサロンの活動について発表を聞きたい、政策とタイアップした取組、役員の優秀な地区
- ・地域の組織づくり、地域内のネットワークづくり
- ・ボランティア精神について(心の持ち方ひとつで、楽しくもあり、苦痛にもなる)
- ・今日のような内容が良い
- ・災害時、災害後の「市」「消防」「公民館」「自治会」「民生委員」「消防団」「事業所」「その他団体」等の連携について
- ・独居高齢者や老夫婦世帯、家族間トラブルのある家庭などとの関わり方を教えてほしい
- ・災害時に役立つ調理実習
- ・超高齢社会に地域はどう立ち向かえばよいか
- ・シロアリ対策
- ・地域内の児童減少の状況やその対策、学童等について
- ・自治会費等の額とその使途、独自予算をどのように作っているか

- ・地域活動を行う人材発掘について
- ・避難場所の問題点について
- ・健康体操をしてほしい。貯金運動の実施状況
- ・これからの世代との意見交換会
- ・犬、猫の飼い方 野良猫の減らし方
- ・地域資源の活用方法
- ・温暖化に対する取組
- ・高齢者の事故、免許返納後の支援

《ご意見》

- ・転入者に対して、市が自治会加入を強く進めてほしい。
- ・この会の参加呼びかけを若い人たちにもしてほしい(若い世代は発展の要ですよ)
- ・発表中に入出入りするの気が咎めるので、水分補給は可能にしてほしかった。途中休憩がほしい。
- ・できれば月、水、木に開催してほしい。
- ・明日から自分は何をすべきなのか？
- ・在アドを増員してほしい
- ・今日の発表を聞かせていただき、自分も何か自治会のために少しでも協力できるよう頑張りたいと思った
- ・3人の発表を聞いて自分ももっと活動していきたいと思った。
- ・最後のまとめの話がすばらしかった。なるほどでした。
- ・演台に花があるといいと思う。

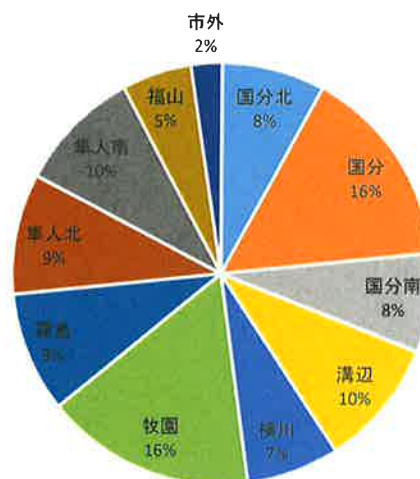
「霧島発 地域の絆」事例発表会 2日分のアンケート集計結果

参加人数	428
アンケート回収数	368
アンケート回収率	85.9%

①お住まい

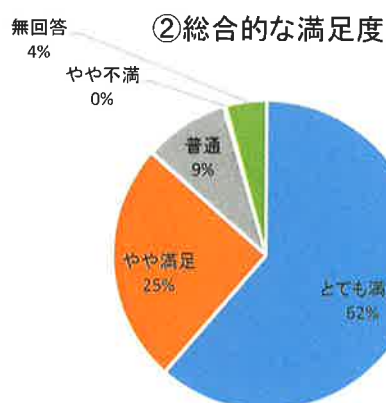
国分北	29
国分	57
国分南	28
溝辺	36
横川	26
牧園	60
霧島	34
隼人北	34
隼人南	35
福山	20
市外	9
無回答	

①お住まい



②総合的な満足度

とても満足	226
やや満足	92
普通	33
やや不満	1
とても不満	
無回答	16



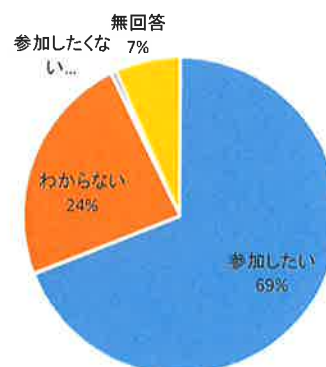
③満足度の理由

それぞれの日程参照。

④情報交換会への参加

参加したい	254
わからない	87
参加したくない	2
無回答	25

④情報交換会への参加



⑤ご意見・ご要望

それぞれの日程参照。